

事業活動実績報告書

施 設 名	あすなろ幼稚園
教 育 理 念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む

1 事業名	日本伝統文化を体験し、子どもの表現力を養う
2 実施期間	令和 7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3 取組概要	（取組日） 令和7年6月2日 ～ 令和7年6月2日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・職員の一人が地元に残る「松本太鼓」の継承者として和太鼓演奏の活動をしていることをご縁にコンサート鑑賞し、年長児は和太鼓体験の指導を受ける 
	（取組日） 令和7年6月2日 ～ 令和7年7月18日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 地元に残る「松本太鼓」の継承者として和太鼓演奏の活動をしている職員から年長児は和太鼓体験の指導を受け、1学期末の葛飾区スポーツセンター大体育館で開催する「盆踊り大会」で盆踊りの輪の中心に設置した檯の上で和太鼓演奏を披露する。 
	（取組日） 令和7年6月2日 ～ 令和7年10月3日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 地元に残る「松本太鼓」の継承者として和太鼓演奏の活動をしている職員から指導を受けた年長児が運動会の年長種目ソーラン節のなかでも全員和太鼓パートを交代でご披露する。 
	9（取組日） 令和7年9月4日 ～ 令和7年9月4日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 職員の一人がよさこいソーランチームとして活動していることをご縁からソーラン節コンサートを鑑賞し、年長児はソーラン節の指導を受ける 
	（取組日） 令和7年9月4日 ～ 令和7年10月3日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長児はよさこいソーランチームとして活動している職員からソーラン節の指導を受け、2学期の葛飾区スポーツセンター大体育館で開催する運動会のメイン種目としてソーラン節を披露する。 

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	あすなろ幼稚園				
教 育 理 念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ○	人間関係 ○	環境 ○	言葉 ○	表現 ◎

1 事業名	日本伝統文化を体験し、子どもの表現力を養う				
2 事業概要	・職員の一人が地元で伝わる「松本太鼓」の継承者として和太鼓演奏の活動をしていることをご縁にコンサート鑑賞し、年長児は和太鼓体験の指導を受け、1学期末の葛飾区スポーツセンター大体育館で開催する「魂祭り(盆踊り大会)」で盆踊りの輪の中心に設置した檣の上で和太鼓演奏を披露する。また運動会の年長種目ソーラン節のなかでも全員和太鼓パートを交代でご披露する。 ・職員の一人がよさこいソーランチームとして活動しているご縁からソーラン節コンサートで鑑賞し、年長児はソーラン節の指導を受け、2学期の葛飾区スポーツセンター大体育館で開催する運動会のメイン種目としてソーラン節を披露する。				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	全学年、全クラス(クラス名:)			228 名	

計 画 時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・和太鼓・ソーラン節の各専門指導者 ・魂祭り・運動会の運営職員			
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・和太鼓コンサートを保護者の方も観覧自由と呼び掛けたところ、予想以上の多くの保護者が参加してくださり、ご家庭での興味の高さを実感できた。 ・本年度はソーラン節コンサートのメンバーが事情により来られず、指導者のみの模擬演技を子ども達に見せるのみとなった。そのことで子ども達には団体で踊るイメージを持ちづらく苦戦したのではと考えられるので、次年度はコンサートが開催できるよう努めたい。			

計 画 時	5 事業のねらい	和太鼓やソーラン節の体験を通し、日本の伝統楽器独特の作法やリズムを体感することで日本ならではの表現を身につけ、人前で披露することで自己表現の自信を身につける			
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 全学年、保護者と共に和太鼓コンサートやソーラン節で実際の舞台を体験し、さらに年長に進級するまでの3～4年間、年長児が真剣に和太鼓やソーラン節に取り組む姿を見て憧れの気持ちを育んだうえでの、年長に進級した時の本事業に対する園児のモチベーションが非常に高い。 その成果を発表する場である魂祭りや運動会では、年長児たちの見惚れるほどの集中力や団結力、全身で表現する喜びを披露してくれて、さらに次世代へとつながった魂祭りではどの曲目を踊り、どの曲目を和太鼓で叩くかは、子ども達に任せており、その点においても活動に対する主体性が育まれたと感じている。			

計画時

6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等	
	・6/2和太鼓コンサート&体験会(全学年) ・6/2～7/17年長ほぼ毎日和太鼓指導(他学年はその周りでほぼ毎日盆踊り) ・7/18盆踊り大会「魂祭り」(葛飾区総合スポーツセンター大体育館貸し切り)にて披露 ・9/4ソーラン節&体験会(全学年) ・9/4～10/17年長ほぼ毎日ソーラン節指導・和太鼓指導 ・9/5、9/11、9/12、9/29運動会予行(葛飾区総合スポーツセンター大体育館貸し切り) ・10/3運動会(葛飾区総合スポーツセンター大体育館貸し切り)にて披露 ・10/20アンコール運動会(本番が縦割り分散型のため、学年ごとに披露する機会) ・年間通し、園生活の中でソーラン節・和太鼓に触れる	
	上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点	
	幼稚園教育要領「表現」(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする一年齢の低いうちに日本古来の伝統芸能に触れることで日本独特のリズム感が養われ、その美しさが身近な存在となる。 幼稚園教育要領「表現」(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう一練習を重ねて発表の場を設けることでクラスの絆が深まり、互いを褒め合う文化も育まれる 幼稚園教育要領「表現」(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする一この大舞台で発表する経験が自信となり、次は自分で表現を考えるような姿勢が育まれる 幼稚園教育要領「表現」(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう一リズムや踊りが身近になることで、さらに多様な楽器や踊りにも興味を持つようになる	

事業後

6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等	
	今年度から衣装作りを保護者をお願いするのではなく、保育活動のなかで子どもが自身自身の衣装を作ることに挑戦した。そのことで、保護者からはご批判も多く賛否両論ではあったが、結果的には衣装づくりを通して子どもがより日本文化を意識するきっかけになったり、製作活動を通じて表現の幅が広がったように感じている。また、この活動を長く続けていくために保護者負担を軽減していくことは非常に有効であったと感じている。	

計画時

7 環境構成例	・「あすなろ幼稚園では、年長になったら魂祭りの中心の櫓の上で和太鼓を叩くんだ」と一番年齢の低い学年からその姿を憧れをもって目の当たりにし、さらに毎年本物の松本太鼓を体験することで、いざ年長になったときに一人ひとりの和太鼓に取り組む気持ちが「満を持しての…」というモチベーションマックスで迎えられるように配慮している ・和太鼓は思いっきり叩いてほしい消耗品と捉え、低価格の和太鼓を12台揃え、毎年4台ずつ買い替えている ・パチは各御家庭で雑誌を丸めて棒状にしそれぞれデコレーションしたものを用意して頂き、本物の和太鼓とパチで練習できない時間も自分のパチでどこかを叩いて練習できるようにしている ・「魂祭り」では熱中症対策と雨天対策を考慮し、葛飾区総合スポーツセンター大体育館を貸し切りにして、櫓をレンタルして業者に設置して頂く ・「あすなろ幼稚園の運動会では、年長になったらみんなでソーラン節を踊るんだ」と一番年齢の低い学年からその姿を憧れをもって目の当たりにし、さらに毎年本物のソーラン節を体験することで、いざ年長になったときに一人ひとりのソーラン節に取り組む気持ちが「満を持しての…」というモチベーションマックスで迎えられるように配慮している ・ソーラン節の衣装を園で自分で製作するものとする中でさらにモチベーションを高める。 ・運動会予行を本番の会場で事前に3回設定することで、本番でのソーラン節で実力を出し切って満喫できるよう配慮している。	
---------	--	--

事業後

7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等	
	・子ども達にとって毎日の園生活の中で日常的に和太鼓を叩き、和太鼓演奏を聴き、ソーラン節を踊り、それを鑑賞できる環境は何物にも代えがたい本活動の導入になっていると感じた。今後も特別な時ではない日常感で素地を作り、その延長に魂祭りや運動会といった特別感のあるハレの日を設けることを大事にしていきたい。	

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・「魂祭り」も、運動会も、人前での披露を体験することで目に見えて自信をもてるようになり、園生活をさらに主体的にたのしむようになる。 ・和太鼓もソーラン節も本物を体験することで指導する職員達を「師匠」と呼び他職員とは違う絆と信頼関係が生まれる
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・魂祭りでの和太鼓披露と運動会での和太鼓とソーラン節披露を通し、年長児一人一人が大きな自信を持ち、さらにのびのびと園生活を満喫するようになった。 ・和太鼓もソーラン節も本物を体験することで指導する職員達を「師匠」と呼び他職員とは違う絆と信頼関係が生まれ、その絆は卒業時まで続いた。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・和太鼓もソーラン節も、あすなろ幼稚園では、それぞれ指導する職員が当園に就職する前から地元を中心に地道に活動しており、それぞれ個人で活動するほどの技術を持つ人材がたまたま当園に就職した、という経緯がある。本事業においてそのご縁を最大限に生かすことで園児が本物に触れることが出来る喜びやメリットは勿論だが、それぞれの職員が当園で自分の持つ技術や才能を余すことなく発揮し、それが園児たちにそして園に還元されていく喜び、働き甲斐を生み出すことで、さらに職員と園児のよい循環が生まれていっていると感じる。 またその様子を目の当たりにすることで、他の職員も自分の技術(ダンスや吹奏楽や縁故など)を当園は活かせる場なのだと認識して園全体の活気に繋がっていく。これがあすなろ幼稚園の雰囲気の良いさに直結していると考えている。 卒園後に和太鼓を習い事として始めた話や、園外のソーラン節の舞台を家族で観劇に来てくださった等、ご縁の広がりを感じる逸話を多く聞いている。 またインスタグラムにて本事業の様子を動画で発信していくことにより、より広くご理解を得られるようになっていっていると感じている。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。